

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム・ふ・れ・や・か・朋悠	評価実施年月日	平成20年 11月 25日
評価実施構成員氏名	池 功司 ・ 茂木 要 ・ 菊地 勝美 ・ 鴫田 靖弘		
記録者氏名	茂木 要 菊地 勝美 鴫田 靖弘	記録年月日	平成20年 11月 28日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>個人の尊厳を重視し、明るく健康で安全な生活をおくれるように支援し、家族・地域と共に 歩む</p>	○	<p>全体会議の冒頭で読み上げ唱和し毎回確認をしている</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>全体会議、ユニット会議の中で話し合い、実践できるよう取り組んでいる</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>入居時や家族会等の際に理解をいただき、地域にはホーム来設時、広報誌を通じて理解していただけるようにしている</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>ホームのお祭り行事に参加していただいたり、毎月広報誌を配布したりすることで理解されてきている</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会開催の行事に参加したり、ホームの行事にも来ていただいて交流を深めている</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や関係団体を通じ、話し合いを設けている</p>	○	<p>今年度は地域の方を対象に認知症の事やグループホームについての勉強会を行った。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価と外部評価の差や改善、努力項目について管理者、職員等の勉強会又、会議等を通じて見直し改善につなげている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者の普段の状況や活動、施設の運営状況の報告地域の状況などお互いに情報交換しながらサービスの向上につなげている。	○	地域に向けて、認知症について勉強会を実施しており又、多方面にも広報誌等を配布し状況などを伝えている。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	町で行う研修会、勉強会に積極的に参加し知識の習得や情報交換を行いながら質の向上につなげている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	運営推進会議や役場・地域包括支援センターからの情報や研修会等に参加し制度について学んでいる。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	町の高齢者虐待防止ネットワーク会議等で得た情報を職員会議、勉強会などで周知し理解を深めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時や解約時は利用者、家族に対して不安、疑問を持たないように十分説明し対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が上手く表現できない思いや、不満な事など、日常接している職員が代弁者となり改善につなげて行けるように日々対応している		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の面会時や電話・手紙・広報誌等で利用者の日々の生活状況や健康状態について報告している又、預かり金など金銭管理を施設で行っている人は、定期的に管理状況を報告している	○	あまり面会に来ない家族には、月1回は定期的に手紙を出し近況を伝えたり、必要時には電話をしたり、家族と疎遠にならないよう働きかけている
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会、運営推進会議の場、面会等の際、また電話・手紙等で確認したり、玄関にご意見箱を設置し運営に反映させている		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各種会議、ミーティング等を通じて反映させている		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態や家族の状況変化については、その都度検討し対応している。また、場合によっては職員の勤務調整をして対応している		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員との馴染みの関係や、信頼関係を保ち利用者に不安や混乱をきたさないよう異動は基本的に最小限にしている。また離職などで職員が代った場合も早く馴染めるようフォローしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>職員個々の希望やレベルに合わせた外部の各種研修会や勉強会に積極的に参加し研鑽する機会を作っている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>町内、町外に関わらず、研修や勉強会へ積極的に参加し同業者との交流や情報交換の機会を設け日常のケアに反映できるように取り組んでいる</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>問題があればその都度話し合う機会をつくり解決していくようにしている</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>毎月、職場内での勉強会を実施し、認知症及びケアについて勉強している。また、経営コンサルタントが主催する人材育成研修会にも参加し管理者やスタッフとしての人格形成に役立てている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>本人の体調や、その時の状況に合わせて負担のかからないように配慮し、できるだけ不安を抱かないよう対応している</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>家族には十分な説明を行い、希望や要望を聴き疑問や不安が残らないよう確認している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現状や支援を必要としている部分をよく見極め、提供できるサービスの内容を十分説明してから、利用につなげている		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族にも協力を得ながら、本人の不安が少しでも軽減し生活に馴染めるよう対応している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に生活している中で、素直に感情表現できる雰囲気や、個々の能力に働きかけながら互いに支えあって生活している感謝の気持ちを持ちながら日常のケアにあたっている		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	個々の家族の希望や思いに応じて、互いに協力しあいながら、より良い生活作りにつなげている		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	手紙・電話等で近況を報告している。また交流会をもてるように各種行事等の際にも積極的に参加の呼びかけをしている		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者のこれまでの付き合いや、友人、親戚関係等いつでも気軽に行き来できるよう支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の相性や人間関係をよく把握し、できるだけ円滑な関係が保てるように配慮している		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	以前に入居して退去した方については、折りにふれて連絡をとったりその後の状況を確認している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いや希望を言える人には、できるだけそれに添った対応をし、自分で上手く表現できない人には、日常の観察の中から本人の立場に立って対応を検討している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のインテーク時にアセスメントを行ない、本人や家族、各種関係機関から情報を得てホームでの生活に役立てている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	アセスメントの際に情報収集を行い、状況の把握に努めるとともに、生活していく中で、本人の言動や行動、変化を見逃さず、できることできないことをよく見極めながら支援にむすびつけている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の希望、状況や有する能力をよく見極めより良い暮らしに結びつけるよう計画をたてている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間にこだわらず、状態や心境等に著しい変化のある場合は、家族にも報告し見直しを行っている		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の各利用者の生活状況を記録し、関わり方や気付いた点等情報を共有しながら同じ視点で関わって行けるよう進めている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の希望などに応じて事業所のもてる機能を有効に使いながら支援している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	緊急時に備えての警察や消防などの機関への情報提供や、町の各機関との連絡や情報交換などを行いながら支援している		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域の事業所とのミーティングや研修会、勉強会の際に情報交換を行い、必要に応じて他のサービスへつなげられるようにしている		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域の研修会や勉強会、運営推進会議等において地域包括支援センターとも連絡や相談を行い、ケアマネジメントに関する勉強の機会やアドバイスをもらっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>従来からかかっているかかりつけ医への受診の支援や、必要に応じ適切な医療を受けられるよう家族とも連絡を取りながら支援している</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>受診の際や地域の勉強会や会合等の際に直接相談し助言やアドバイスをもらっている。その他、必要があれば電話やファックスで連絡をとり情報交換しながら対応している</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>自前で看護資格を持つ職員を配置し、医療連携体制においても訪問看護ステーションと連携しながら、必要時に相談やアドバイスを受けれる体制をとっている</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院した場合は差し支えない範囲でできるだけ面会にいき、本人の安心につなげ、病院や家族とも情報交換を行い連絡を密にしている</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>医療連携体制を実施し訪問看護ステーション、訪問医を行っている町内の医師と連絡を密にしている</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>現在までホームでの終末期の対応はないが、重度化や終末期の対応は必然となってくる事は避けて通れない為、訪問医、訪問看護ステーションと連携している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>リロケーションダメージを最小限にする為、家族にも協力してもらい、できるだけ使い慣れた物や、馴染みの品等を用意してもらい本人の安心感につながるよう配慮している</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者一人ひとりに尊厳をもって対応することを心掛け、本人のプライバシーに触れる事等は、本人や他者の前では話さないようにしている。また、個人情報についても外部に洩れないよう守秘する事を心掛けている</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者個々の状態に合わせた声かけや対応で、できるだけ本人の素直な意思を引き出せるよう働きかけている</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者一人ひとりの思いや趣味、またその時の気持ちに配慮し、希望にそえるような対応を心掛けている</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>朝、起床時に身だしなみを整える手伝いをし、理美容等についても本人や家族に確認しながら、本人の意思を尊重し対応している</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>できる方には一緒に下ごしらえや準備の段階から手伝ってもらい、片付けや食器洗いなど、役割を持つことで、本人の達成感や満足感につなげられるよう支援している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在、お酒やタバコを必要とする方は居ないが、希望があれば考える。本人の好きなものや欲しい物については一緒に買い物に行ったり、家族にも協力してもらって選んでもらうように支援している		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表による観察を行いながら、排泄のパターンをつかみ、それぞれの状態にあった声掛けや誘導介助を行っている		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一応曜日や時間帯は設定してあるが、その日の気分で入りたくないという日もあるので、その辺は翌日にずらしたり、本人の希望に添って柔軟に対応している		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の希望や、状態に合わせて休憩したり、休めるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の状態に合わせて、役割や楽しみごとができる機会をつくり、時には買い物に行ったり、散歩やドライブに行くなど気分転換もできるよう支援している		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ある程度お金を管理できる方については、家族にも了承を得て自己管理をしてもっており、外出等の際には買物の支援を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個々の状態や希望に合わせて、閉じこもりがちにならないよう外に出る機会をつけている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望があれば家族とも相談し外出できるよう働きかけている。また、行事等で外出の機会を設けている		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に添って、電話をかけたリ、手紙の代筆を行ったりしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に面会できるようにしており、本人や来訪者の希望に応じ、各人の居室や食堂、リビングなどその時の雰囲気や落ち着いた過ごせる場所を使ってもらうようにしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束にあたる行為は行っていないが、正しい認識を共有していく必要がある。	○	具体的な行為等などについて、会議等の場で全体の認識や情報の共有を深めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は日中は施錠しておらず、基本的に非常口以外は施錠しないように対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 ○利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>個々の状態を見極め危険の予測をしながら、時には付添い安全に生活できるよう配慮している。</p>		
<p>68 ○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>個々の状態に合わせて刃物やはさみなどの管理を行っている。</p>		
<p>69 ○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>各種マニュアルを常備し、研修会などにも参加して全体での意識向上に努めている。</p>		
<p>70 ○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急時や急変時の連絡体制は徹底しているが、個人の経験値や能力の差もありまだ十分とは言えない</p>	○	<p>各種場面を想定した訓練や、対応についての情報を共有し、研修会等にも参加して全職員が対応できるように努めたい。</p>
<p>71 ○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>災害や緊急時に備えた訓練を定期的に行っており、避難場所も確保している</p>	○	<p>隣近所や地域の人達とも緊急時の際はお互いに協力し合える体制づくりを行うため運営推進会議や自治会を通じて現在体制作りを進めている。</p>
<p>72 ○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>個々の身体状況や、生活の中で起こりうるリスクについて家族に説明し、できるだけ回避していけるよう対応している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者の体調の変化や異常などに気づいた時は、状況確認し回りの職員とも情報を共有し速やかに、現場のユニットリーダーや管理者らへ報告を行い早期対応に努めている。	○	家族来訪の際には本人の体調等の変化、普段の様子を伝えている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各人の状態に合わせて服薬の援助を行っている。また、服用している薬についても間違えの無いよう、渡す前に必ず名前と日付・何時の薬かを確認している。	○	個々の薬についても、内容や効能、正しい使用方法について全体で情報を確認している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	普段の食事や、水分摂取量の確認、下剤の調整などを行っている。	○	便秘の原因や予防についても常に気をとめながら対応している。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、各人の状態に合わせて口腔ケアを行っている。	○	その時の気分や状態によって拒否があったりする場合は、時間をずらしたり、対応者を代えて支援している。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各人の希望や体調に合わせて、量や形態の調整をし食事や水分の摂取量が一日を通じて確認できるように記録している。	○	拒否があったり、あまりすまない時は介助したり、本人の好むものを用意して対応している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	感染症マニュアルを用意し、研修会等にも参加し全体で周知対応している。	○	日常の手洗いやうがい、必要に応じたマスクや手袋の着用を行っている。又病院受診や外出の際もなるべくマスクを着用するように心がけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒予防の為、毎日使用する食材の管理や、台所、調理用具の洗浄、漂白・消毒を行っている。	○	台所で使用する布巾やタオル、まな板等は毎日消毒している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節に応じた花を飾ったり、親しみやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の作った作品や写真などを展示したり、音楽を流したり、落ち着ける雰囲気作りを心掛けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各自の希望や、気に入った場所で過ごせるよう配慮している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	できるだけ使い慣れた物や、馴染みのある品を用意してもらい、本人が安心して過ごせ、かつ安全に配慮した空間づくりを心掛けている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	朝は利用者が起きてから、窓を開けて換気を行う。また、その日の天候や気温に合わせて窓を開けたり、エアコンや暖房で室内の温度調整を行っている。	○	冬場は特に空気が乾燥するため、加湿器や濡れタオルを吊るすなど、乾燥しないよう配慮している。臭いについては、必要時に掃除したり、消臭剤などを使用し残らないよう配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各人の身体機能や安全性に配慮した環境づくりを心掛けている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	希望や状態に応じ、居室に表示をつけたり、トイレの表示をつけるなど、認識しやすい環境づくりに努めている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外周りには畑やバルコニーがあり、利用者が好きな時に使用できるようにしている。	○	畑やバルコニーを利用して花や菜園作りなど、利用者が楽しめるよう活用しており、今後もいろいろ試みながら一緒に活用していきたい。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある✓ ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい✓ ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい✓ ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように✓ ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている✓ ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が✓ ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが✓ ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが✓ ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 ・家族が来訪した際には、必ず体調や日々の様子を伝えている